

31. 香港における大学生の SOC (Sense of Coherence) とライフスタイルの検討 —獨協医科大学生と比較して—

¹獨協医科大学教育支援センター

²姫路獨協大学, ³獨協医科大学産婦人科学
八杉 倫^{1,2}, 西山 緑¹, 稲葉未知世^{1,3},
田所 望^{1,3}

【目的】本研究は、香港の大学生にアンケート調査を行い、本学学生との比較により、香港の大学生の特性を探ることを目的とした。

【方法】対象は、香港城市大学専上学院第1・2学年の学生289名、獨協医科大学医学部第1学年と看護学部第3学年の学生224名である。方法は、SOC10項目と生活習慣に関する12項目の自記式質問紙法である。SOCスコアは、香港の大学生と獨協医大のスコアをt検定で比較した。生活習慣に関する項目は、 χ^2 検定で比較した後、ロジスティック回帰を使用し調整オッズ比を求めた。統計解析には、PASW Statistics 18.0 (IBM) を使用した。

【結果】SOCスコアで香港大学生と獨協医大生で有意差が見られた項目は7項目あり、香港大学生が高得点であったのは、「あなたは、これまでに、良く知っていると思っていた人の思わぬ行動に驚かされたことがない」「あなたはあてにしていた人ががっかりさせられたことがない」「過去10年間のあなたの人生は、見通しのきいたもの」の3項目であった。「これまで、他人の協力が必要なことをしなければならないとき、あなたはうまくいくと思えましたか」「人生というものは、興味の尽きないもの」「今まであなたの人生は、とても明確な目標や目的があった」「あなたは、不当なあつかいを受けているという気持ちになることはなかった」の4項目とともに、総合点が獨協医大生の方が有意に高かった。

次に、香港の対象者は、女子学生、健康状態が不良なもの、朝食欠食者、間食者、外食者、睡眠で十分休養が取れていない者の割合が高く、喫煙経験者および平均睡眠時間が6時間未満のものの割合が低かった。香港で多い朝食欠食者の特性を検討したところ、外食者、間食者、睡眠で十分休養が取れていない者が多かった。

【考察・結論】香港の大学生は獨協医大生よりSOC総合点が低かった。また、朝食欠食者が多く、間食や外食、睡眠で十分休養が取れないことが関与していたので、生活習慣を改善させる支援の必要性が示唆された。

32. 本学における教育方面でのICT利用の現状

基本医学 情報教育部門(兼務：情報基盤センター)
山下真幸、坂田信裕

本学における教育用のICT(情報通信技術)環境を向上させるために必要となる情報収集を目的として、教育に利用可能なICT環境の利用実態について調査を行った。調査対象は、コンピューター教室、無線LAN、LMS(学習管理システム Learning Management System)とした。

コンピューター教室の教室開放時における最近一年間の学部、学年別の利用状況を集計した。その結果、医学部5年生の利用が最も多く、BSL時に情報収集、レポート作成等での利用が考えられた。また、最近一年間のアプリケーション別の使用状況では、Webブラウザ利用が最も多く5割を越え、文書作成ソフト利用が約3割程度であり、この2つのアプリケーション利用だけで全体の8割を越えている状況が把握できた。

2010年10月より無線LANサービス(略称DARWiN)の運用を開始した。アクセスポイントは、教室等を中心に現在36台が設置されている。2011年10月までの月間利用者数の推移集計では、ほぼ一貫して学生の利用者数が増加しており、現時点では、全学生のうち約300人が無線LANサービスを利用していた。今後、スマートフォンやタブレット端末のさらなる普及が想定されることから、学内での無線LANサービス需要の拡大が見込まれ、サービス範囲拡大への取り組みが必要と考えられた。

LMS(学習・授業支援システム)は、2011年4月に導入され、主に対面授業の支援目的で利用されている。運用開始以降、学休期間を除いて毎月1000回以上ログインされていた。医学部1年生へのLMS使用后アンケートでは97%の学生が便利なシステムであると回答した。本学のLMSは、学生用のポータル機能および緊急時の安否確認機能も併せもっており、さらなる活用を行うため、利用促進策の実施が必要と考えられた。

今回の利用実態調査は将来の需要予測に活用でき、ICT環境改善への取り組みに活用可能と考えられた。